



はじめよう「防災ワークショップ」

～ワークショップによる防災に関する校内研修～

宮城県教育研修センター 専門研究「防災教育グループ」

※独立行政法人教員研修センター「教員研修の手引き（H17）」より作成

1 ワークショップについて

(1) 「ワークショップ」とは

「ワークショップ (Workshop)」は、もともと「作業場」「仕事場」など、共同で何かを作る場所を意味しています。講師の話を参加者が一方的に聞くのではなく、参加者が主体となって積極的に参加し、双方向性や相互作用を生かして体験的に取り組むものです。

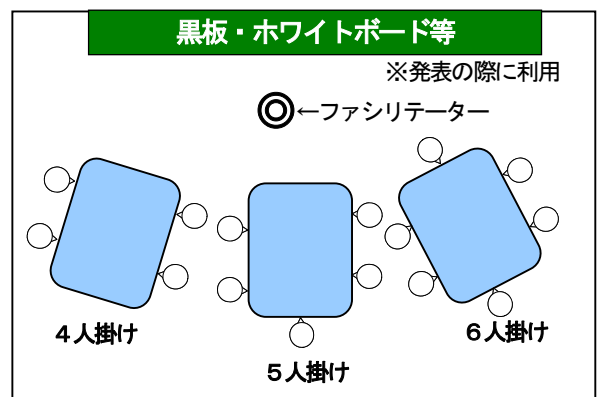
(2) ワークショップによる校内研修の効果

学校組織は、多様な価値観をもった教職員で構成されています。その中で互いにアイデアや知恵を出し合い、問題を解決していく体験を通して、教職員の協働性を培い、具体的な手だてを見つけ出すことができます。また、協働性が高まると一人一人の参加意識が深まり、校内研修の活性化が期待できます。

(3) ワークショップを実施するには

① 場作り

ワークショップは活動 (アクティビティ、エクササイズ等) が中心となるため、その活動に応じた場作りが必要です。グループを編成するに当たっては、多様な意見交流ができ、かつ全員が発言できることを考慮し、1グループあたり4～6人が適切だと言われています。右の図は、基本的な場作りの例です。グループメンバーの構成や座席は、担当学年や経験年数、分掌、男女比等により、あらかじめ決めておきます。偶然でよいならば、くじ引き等で決定します。

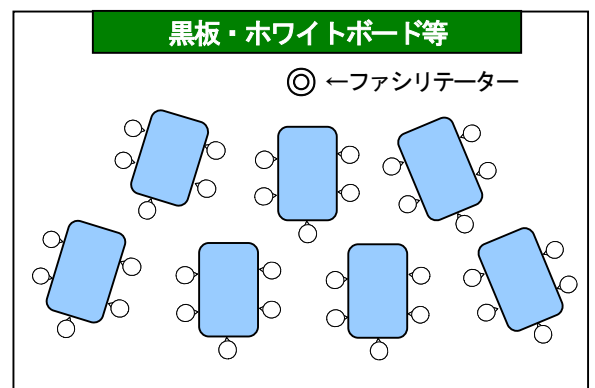


基本的な場作りの例

② 会場レイアウト

全体の会場レイアウトも大切です。右の図のように、進行役であるファシリテーターを囲むように机を配置します。机の配置は、移動しやすく、隣のグループの話が気にならないように間隔を空けます。机の向きは、参加者が顔を横に向けるだけ、少し振り向くだけで、全体の進行役や黒板・ホワイトボードでの発表の様子が見られるようにします。

場作りと会場レイアウトを工夫することで、参加者がリラックスして自由に意見を言い合える場の雰囲気づくりができるでしょう。



③ ワークショップの主な役割分担

| 役割名 | 主な内容 | 留意点等 |
|-----------|---|--|
| ファシリテーター※ | <ul style="list-style-type: none"> ○全体の進行・助言 ○開始前の説明および終了後のまとめ ○時間の管理・計時 | ※防災ワークショップでは防災主任が務めます。 ・話の展開を洞察しつつ、必要に応じて介入し、意見を関連付けたり、円滑な進行を促したりします。 |
| 進行役 | <ul style="list-style-type: none"> ○各グループの話合いの進行 | ・ファシリテーターの指示や「グループ進行表」を基に、話合いを進めます。進行役もできる範囲で話合いに参加します。 |
| グループメンバー | <ul style="list-style-type: none"> ○全員参加による話合い | ・ワークショップの内容に応じて、グループメンバーの中で、更に記録係・発表係などの役割設定をします。 |

④ プログラム

ワークショップには基本的な流れがあり、研修内容や参加者の実態を考慮してアレンジします。限られた時間の中で行うには、プログラムを練ることが必要です。

ワークショップの基本的な流れ

| | |
|--------|--|
| Step 0 | アイスブレイクや自己紹介を通して、雰囲気や和らげながら、具体的な課題解決型のテーマを示し、やる気を高める段階。「チェックイン」とも言う。 |
| Step 1 | ファシリテーターの指示に従い、自由奔放にアイデアや意見を出し合う段階（発散思考）。質より量が大切。 |
| Step 2 | 出された意見を分類整理し、解決方法を考え（収束思考）、具体的な解決策（具体性）を見つけ出す段階。 |
| Step 3 | グループで考えたことを発表し、意見を交流し合う段階。「シェアリング」と呼ばれる。 |
| Step 4 | 明日からの取組について整理し、互いに確認する段階。「チェックイン」に対して「チェックアウト」とも呼ばれる。 |

⑤ 話し合いを進める上での約束

- 全員が話し合いに参加できる雰囲気を作るために
 - ・ 話を遮らない
 - ・ 否定しない
 - ・ 一人で話し過ぎない
 - 限られた時間の中で実施するために
 - ・ 時間どおりに活動を区切る
- ※ 話し合いが途中で、ファシリテーターの指示に従う

なぜ、「防災教育」に「ワークショップ」？

ワークショップでは教職員が主体的に参加しやすいため、防災に関する話し合いを設定することで、参加者全員の防災教育に対する意欲を高めることが期待できます。また、「参加者全員でアイデアを出し合い、具体的な手だてが見つげられる」「各自の災害時の経験を共有し、継承することができる」などのメリットもあり、防災を推進する研修の手法として効果的であると言えます。



2 「防災ワークショップ」について

(1) 「防災ワークショップ」とは

防災に関する要素を取り入れたワークショップによる校内研修として、学区・校地・通学路・校外学習・家庭の5つの場面において、様々な自然災害を想定して危険や行動をシミュレーションできる研修形態や活動を総称して「防災ワークショップ」としました。



(2) 防災ワークショップの効果

- ① 参加者全員が主体的に取り組み、教職員の防災意識や防災対応能力を高められる。
- ② 参加者全員で積極的にアイデアを出し合い、防災に関する具体的な手だてや指導方法が見つげられる。
- ③ 教職員の役割の確認や防災マニュアルの見直しや改善に役立ち、地域や学校の実態に合わせた防災教育を見直すことにつながる。
- ④ 教職員の研修だけでなく、児童生徒等への指導にも活用でき、具体的な状況に合わせた行動の仕方を考えさせ、判断力を養うことにつながる。
- ⑤ 保護者や地域の方々、関係機関等とともに話し合い、課題を把握することを通して、連携を深めることができる。
- ⑥ 各自の災害時の経験を共有し、継承することができる。

(3) 防災ワークショップの主な資料

5つの防災ワークショップのそれぞれにすぐに印刷・自校化できる下記の5つの資料があります。

| 資料名 | 主な内容 | 資料のポイント |
|---------------|--|---|
| 研修ガイド | ○ねらい、流れ、準備物 ○準備、活動内容のポイント ○児童生徒等への指導、家庭、地域等との連携について（指導・活用方法） | ・防災主任が「研修ガイド」を読めば、ねらい、流れ、準備、活動ポイント、児童生徒等への指導、家庭・地域等との連携について分かるようにまとめられています。 |
| ファシリテーター進行表 | ○参加者の活動内容 ○ファシリテーターの留意事項 助言ポイント | ・ファシリテーターである防災主任がグループの活動内容を把握し、うまく進行、助言などが行えるよう助言のポイントや進行のポイントがまとめられています。 |
| 進行スライド（進行要領例） | ○ファシリテーターの進行用スライド ○進行要領例 | ・防災主任がスライドを用いて進行できるように、スライドと進行要領例がまとめられています。 |

| | | |
|---|---|---|
| <p>グループ進行表 ※グループ進行役の先生に配布します</p> | <p>○活動内容 ○グループ進行用 せりふ例 ○進行上の留意点</p> | <p>・グループ活動で進行役の先生が進行しやすいように、せりふ例と活動内容がまとめられています。全体進行は防災主任が行いますが、グループ活動はこの資料を参考に、進行役の先生にさせていただきます。 ※参加人数やグループ活動等学校の実態に応じて活用ください。</p> |
| <p>ワークシート ※参加者に配布します</p> | <p>○ねらい ○活動内容 ○メモ欄</p> | <p>・参加者がねらいや活動内容を把握し、自分の活動やグループの意見、他グループの発表などメモをしながら取り組めるようまとめられています。</p> |

※ 「研修ガイド」「ファシリテーター進行表」「グループ進行表」「ワークシート」はワープロソフトで作成されています。学校の実態、校内研修の計画や参加人数、活動内容等に応じて柔軟に加除修正を行ってください。

※ 5つの防災ワークショップそれぞれに「ファシリテーター進行表」に基づいた「進行スライド」があります。プレゼンテーションソフトで作成しているため加除修正をすることができます。さらに進行を進める際に参考となる「進行要領例」も付いています。必要に応じて活用してください。

※ 「防災ワークショップ・家庭編」のみ、児童生徒等の指導に活用できる「児童生徒等用ワークシート」と家庭との連携に活用できる「家族防災会議用ワークシート」があります。

(4) 防災ワークショップの基本的な流れ


- ① 地図や写真等を活用し、「どこで、どんな自然災害が発生したか」を確認する。
- ② 「考えられる危険」を付箋に書き出し、地図・写真等に貼り付ける。
- ③ 貼った付箋を基に発表し、話し合う。
- ④ 「対策」や「事前指導」を付箋に書き出し、地図・写真等に貼り付ける。
- ⑤ 貼った付箋を基に発表し、話し合う。
- ⑥ 付箋を整理してグループ化し、まとめる。
- ⑦ 全体でシェアリングをする。

※ 「防災ワークショップ」の種類によって基本的な流れが異なり、付箋ではなく、ワークシート等を活用する場合があります。

なぜ、ワークショップに付箋を使うの？

ワークショップに付箋を使うのは、多様な考えをもつメンバーが対等な立場で、創造的、建設的に話し合いを進めるためだと言えます。考えられる具体的な効果は下記のとおりです。

- すぐに発言するのではなく、付箋に書き出すことで自分の考えを整理できる。
- 発言が得意・不得意に関係なく、意見や考えを提示できる。
- 話し合った内容を統合・整理し、視覚的に分かりやすく記録することができる。等



(5) 防災ワークショップの主な内容と児童生徒等への指導・家庭、地域等との連携への活用例

5つの防災ワークショップのそれぞれに児童生徒等への指導・家庭、地域等との連携に活用することができます。

| タイトル | 主な内容等 | 児童生徒等への指導・家庭、地域等との連携 |
|-------------|--|---|
| 学区編 | <p>○学区内の危険箇所や安全に避難できる場所等を把握する。</p> <p>○地震等が発生した場合に起こり得る学区内の危険とそれに対する事前対策、指導を考える。</p> | <p>・児童生徒等の指導には、「学区内の危険と行動について考える」などに活用できます。</p> <p>・家庭や地域との連携には、「学区内の危険や対策について考える」などに活用できます。</p> |
| 校地編 | <p>○校地内の危険箇所を把握する。</p> <p>○地震等が発生した場合に起こり得る校地内の危険とそれに対する事前対策、指導を考える。</p> | <p>・児童生徒等の指導には、「校地内の危険と行動について考える」などに活用できます。</p> <p>・家庭や地域との連携には、「校地内の危険や対策について考え、学校が避難所になった場合に役立てる」などに活用できます。</p> |
| 通学路編 | <p>○通学路の危険箇所や安全に避難できる場所等を把握する。</p> <p>○台風等が発生した場合に起こり得る通学路の危険とそれに対する事前対策、指導を考える。</p> | <p>・児童生徒等の指導には、「安全マップづくり」「通学時の行動を考える」などに活用できます。</p> <p>・家庭や地域との連携には、「学区内の危険や対策について考える」などに活用できます。</p> |

| | | |
|---------------------|--|---|
| <p>校外学習編</p> | <p>○校外学習や行事等で利用する施設、道路等の危険箇所を把握する。 ○校外学習等で災害が発生した場合に起こり得る危険とそれに対する事前対策、指導を考える。</p> | <p>・児童生徒等の指導には、「校外学習や行事の事前指導」などに活用できます。 写真を活用しての指導は、校舎内の各教室や学校周辺、通学路、商業施設など様々な場面を設定することができます。</p> |
| <p>家庭編</p> | <p>○家庭内の危険箇所を把握する。 ○地震が発生した場合に起こり得る家庭内の危険とそれに対する事前対策、発生時の対応を考える。</p> | <p>・児童生徒等の指導には、「家で地震が起きた場合について考える」などに活用できます。 ・家庭との連携には、「家族防災会議」や「避難確認カードの作成」などに活用できます。</p> |

(6) 防災ワークショップを実施する前に

- ① 最初に「研修ガイド」を読みましょう。準備物や活動のポイントがまとめられています。「授業で活用したい」「HR等で指導したい」「保護者会で使用したい」場合、「研修ガイド」に指導、連携方法がまとめられています。
- ② 次に「ファシリテーター進行表」「進行スライド(進行要領)」「グループ進行表」「ワークシート」を確認し、進行の流れや参加者の活動内容を事前に理解してください。
- ③ 学校の実態、校内研修の計画や参加人数、活動内容等や対象者(教職員・児童生徒等・保護者・地域等)に応じて、「進行スライド(進行要領)」「グループ進行表」「ワークシート」などもアレンジして活用してください。研修したい内容に応じて自然災害の想定もすることができます。
- ④ 東日本大震災からの教訓として「継続した子供たちと教職員の心のケア」が必要です。(「宮城学校安全基本指針」より)ワークショップの活動内容によっては、東日本大震災時を思い出すかもしれません。事前の配慮とワークショップ中の様子の観察による配慮などが大切です。

3 「防災ワークショップ」次のステップ

(1) 「防災ワークショップ」の発展例について

5つの内容とも、それぞれワークショップの内容を踏まえ、次のステップ(発展例)として「災害が発生した場合の対応や動き」について校内研修を深めることができます。

| タイトル | 次のステップ(発展例) 内容と効果 |
|---------------------|--|
| <p>学区編</p> | <p>○ワークショップ後に、災害発生時における学校の対応について話し合うことができます。 ・災害が発生した場合の学校の対応や取るべき行動を、職員の役割分担と時系列に沿って考え、話し合います。 →発生時、事後の危機管理について確認できます。防災マニュアルの見直しにつながります。</p> |
| <p>校地編</p> | <p>○ワークショップ後に、災害発生時における学校の対応について話し合うこともできます。 ・災害が発生した場合の学校の対応や取るべき行動を、職員の役割分担と時系列に沿って考え、話し合います。 →発生時、事後の危機管理について確認できます。防災マニュアルの見直しにつながります。</p> |
| <p>通学路編</p> | <p>○ワークショップ後に、児童生徒等の通学中時での災害発生時における学校の対応について話し合うことができます。 ・児童生徒等が通学中に災害が発生した場合の学校の対応・取るべき行動を、職員の役割分担と時系列に沿って考え、話し合います。 →発生時、事後の危機管理について確認できます。防災マニュアルの見直しにつながります。</p> |
| <p>校外学習編</p> | <p>○ワークショップ後に、校外学習中等に災害が発生した時の学校の対応について話し合うことができます。 ・校外学習中や部活動中等想定し、災害が発生した場合の学校の対応・取るべき行動を職員の役割分担と時系列に沿って考え、話し合います。 →発生時、事後の危機管理について確認できます。防災マニュアルの見直しにつながります。</p> |
| <p>家庭編</p> | <p>○ワークショップ後に、教職員が在宅中に地震等が発生した時の学校の対応について話し合うことができます。 ・勤務時間外や休日等想定し地震等が発生した場合の教職員の動きや学校の対応を時系列に沿って考え、話し合います。 →発生時、事後の危機管理について確認できます。教職員の勤務態勢や防災マニュアルの見直しにつながります。</p> |

(2) 「防災ワークショップ」の継続について

防災ワークショップは実施して終了ではありません。同じテーマで毎年防災ワークショップを実施しても、年度の違いやつながりを実感して共有していくことが大切です。それが次年度の話合いの視点の一つともなります。終了後はその成果物(模造紙や映像・画像等)をできるだけ記録、蓄積をして、防災ワークショップを継続して実施していきます。